

授業科目	* 卒業研究 (横溝)				単位	4		
履 修	必修	関連資格			ナンバリング	EN32005J/E		
開講年次	4 年	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	横溝 紳一郎							
授業概要	3年次の「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」とは異なり、通年科目であるため、1年間(30週)を見通した授業体制となる。受講生は原則的に3年次と同一であるため、継続指導をしながら、4年間の集大成としての卒業論文完成を目指した総合指導となる。なお、2週目以降の詳細は、各担当者が英語学科 DP の9項目を充たす指導内容を組み立てて、授業時に提示する。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的視野・地域的視野での、さらに豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。</li> <li>2. 英語に関するさらなる深い知識と運用能力を身につけることができる。</li> <li>3. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができる。</li> <li>4. 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解を深めるためのさらなる意欲を身につけることができる。</li> <li>5. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創り出すことができる。</li> <li>6. 国際社会の一員として、これまでの経験を活かして、積極的に責任ある役割を果たすことができる。</li> <li>7. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を、これまで以上に役立てることができる。</li> <li>8. どのような相手に対しても躊躇なく、協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>9. より高度な情報収集・情報処理能力を身につけることができる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	20	70	10	100	
知識・理解 (DP1-1)					10	10	20	
知識・理解 (DP1-2)					10		10	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					10		10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)					10		10	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)					10		10	
態度 (DP4-2)					5		5	
態度 (DP4-3)				10			10	
技能・表現 (DP5-1)				10	10		20	
技能・表現 (DP5-2)					5		5	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応策を十分に考えることができる。</li> <li>2. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創り出すことができる。</li> <li>3. 国際社会の一員として、これまでの経験を活かして、積極的</li> </ol>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的視野・地域的視野での、さらに豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。</li> <li>2. 英語に関するさらなる深い知識と運用能力を身につけることができる。</li> <li>3. 現代社会の諸問題について深く論じ、問題があればその対応</li> </ol>				

に責任ある役割を果たすことができる。 4. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を、これまで以上に役立てることができる。	策を十分に考えることができる。 4. 英米文化のみならず世界の文化に関心を持ち、理解を深めるためのさらなる意欲を身につけることができる。 5. グローバル社会の中で、他者と協働してさらに良い環境を創り出すことができる。
---	---

## 授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:オリエンテーション(各担当者による教科運営に関する詳細な説明など) 3年次の指導内容を顧みながら、4年次の授業に臨むための体制作りを行う。第2週目以降の授業進行の詳細は各担当教員より提示されるが、DP9項目を念頭に置いた指導内容になる。	講義・演習	各担当教員からの指示に応じて、卒業論文作成に関わる予習・復習を繰り返すことになる。	120
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				

18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	1. 英語4技能の応用力 2. 日本語・英語におけるコミュニケーション能力 3. 積極的な情報収集能力及び情報処理能力 4. 学士力に関する知識 5. 社会人基礎力獲得に向けた基礎知識			
テキスト	担当教員ごとに紹介します。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	担当教員ごとに紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	4年次の「卒業研究」は、3年次の「専門演習Ⅰ」と「専門演習Ⅱ」を引き継いだ4単位の科目です。最終目標は、卒業論文を完成させ、提出することです。そのためには、各担当者の指導のもと、あらゆる角度からの情報収集や情報処理能力が必要になりますので、普段から十分な準備をして臨んで下さい。			
達成度評価に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年間の集大成となる科目の履修生として、該当する DP9項目を充たせるように最大の努力をして、卒業論文を完成させること</li> <li>●卒業論文提出の際の注意事項： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒論の提出にあたっては、必ず各担当者の許可を得て、指定された期限内に提出すること</li> <li>2. ページ数は、目次を除き、20 ページ以上とすること</li> </ol> </li> <li>●卒論プレゼンテーション：2月中旬頃、全員参加型の「ポスターセッション」を開催予定</li> <li>●成績評価：卒業論文 70%、プレゼンテーション(ポスターセッション) 20%、その他 10%とする</li> </ul>			